

「教職教養課題特講 I」における学習成果と授業改善の視点

保健体育・日野克博

1. 授業の概要

「教職教養課題特講 I」は，教科又は教職に関する科目として，2年生後期に開講している。本授業は，現代的な教育課題について，教育委員会と連携して，その分野の専門の講師を招いて「実践に学ぶ」機会を保障している。近年，「学力低下」の問題が指摘され，教師の資質能力の向上が求められている。学校教育の中核は授業であり，わかる授業を実現し，確かな学力を保障するための授業実践のあり方について学び，これからの大学での自己教育課題を具体化させることが，本授業のねらいである。

表1は，平成21度の授業スケジュールである。山崎・日野が，授業実践並びに授業のコーディネートを行った。実践講話の回には，優れた授業への取り組みを行っている「えひめ授業の鉄人」（愛媛県教育委員会選出）や附属校教諭，松山市教育委員会指導主事等を講師として招き，具体的な実践例の紹介を交えながら教育実践の経験的・実践的な知見を提供して頂いた。また，実践講話の内容を振り返り，自己の教育課題に関連させて考察するために，小グループでの学生ディスカッションの時間を，はじめ・なか・おわりに位置づけた。

表1. 授業のスケジュール

第1回	教員に求められる資質能力
第2回	問題設定と今日的課題
第3回	学生ディスカッション
第4回	実践講話Ⅰ：教育委員会
第5回	実践講話Ⅱ：中学校校長
第6回	実践講話Ⅲ：教材提供者
第7回	実践講話Ⅳ：授業の鉄人（中学校）
第8回	実践講話Ⅴ：県教育委員会
第9回	実践講話Ⅵ：授業の鉄人（小学校）
第10回	学生ディスカッション
第11回	実践講話Ⅶ：附属小教諭
第12回	実践講話Ⅷ：附属中教諭
第13回	実践講話Ⅸ：授業の鉄人（高等学校）
第14回	実践講話Ⅹ：市教育委員会
第15回	まとめ・学生ディスカッション

2. 授業改善について

本授業の特徴として，①外部講師を招いての実践講話，②小グループでの学生ディスカッション，があげられる。これらの点について，学生の授業評価アンケートから，その成果と課題について検討することにした。

1) 授業評価アンケート

第15回のまとめの時間に，表2の項目による学生の授業評価アンケートを実施した。Q1～Q4については5件法により回答させ，5点満点で平均点を算出した。Q5については，該当すると思うものを複数選択させた。Q6は自由記述とした。

なお，この調査は毎年，同様の項目で実施している。平成19年度，平成20年度の結果とも比較しながら，今年度の授業について検討することにした。

表2. 授業評価アンケートの設問項目

＜授業成果に関する項目＞	
Q1.	この授業で，教科指導力について知識・理解を深めることができた
Q2.	教育現場の実践講話から，実践的な問題解決の方法を考えることができた
Q3.	現在の教育課題について，実践的な自己教育課題を見いだすことができた
＜授業方法に関する項目＞	
Q4.	小グループでのディスカッションの授業はよかったですか
Q5.	小グループで話し合った利点として，次に該当するものを選んで下さい（複数可）
	①授業のアクセント
	②受講生同士や教員との双方向性
	③自分の知識の確認
	④教えあうことによる学びの向上
	⑤仲間意識の形成
	⑥授業への参加意識の形成
	⑦その他
Q6.	次年度の授業にむけて（後輩のために）

2) 外部講師を招いての実践講話について

表3は、学生の授業評価の結果を示している。

本授業では、外部講師を招いての実践講話が計10回あった。これらが学生の学びにどうつながっているかが、本授業の成果にも深く関係している。授業評価の結果、5点満点でQ1が4.31、Q2が4.15、Q3が4.10と高い得点になっていた。また、過去3年間を比較しても、常に高い評価になっている。これは、授業内容が教育現場の実践的・具体的な課題であることから、学生も興味深く、目的意識をもって受講できているためと推察できる。この授業での学びを自己教育課題としてどう具体化させるのか、また、これからの主体的な学びにどうつなげていくかが問われている。

表3. 授業成果に関する学生の評価

	H19	H20	H21
Q1.教科指導力についての知識・理解を深めることができた	4.13 (0.63)	4.18 (0.61)	4.31 (0.63)
Q2.教育現場の実践講話から実践的な問題解決の方法を考えることができた	4.14 (0.70)	4.14 (0.65)	4.15 (0.68)
Q3.現在の教育課題について、実践的な自己教育課題を見いだすことができた	4.17 (0.82)	4.06 (0.58)	4.10 (0.67)

*5点満点の平均(標準偏差)

2) 学生ディスカッションについて

この授業は、毎年120人前後の受講者がいる。大人数の講義であるが、学生相互の意見交換や授業の振り返りをする場として、小グループによる学生ディスカッションの時間を確保している。その行い方について、学生に授業評価を実施したところ、表4のような結果になった。

学生は、概ね肯定的な評価をしていた。大人数の講義形式の授業の場合、受動的な授業になりがちである。小グループでのディスカッションの場をつくることにより、学生の授業への主体的な参加がみられたと考えられる。

そこで、学生ディスカッションの利点について学生自身に尋ねてみた。その結果は、表5のとおりである。回答が多かったのが、「教えあうことによる学びの向上」「自分の知識の確認」「受講生同士や教員との双方向性」であった。これらのことから、小グループでのディスカッションの時間を確保することで、学びの質を高めていたと考えられる。

表4. 学生ディスカッションに関する評価

	H19	H20	H21
Q4.授業全体のなかで、小グループでの学生ディスカッションはよかったですか	3.72 (0.84)	3.67 (0.80)	3.83 (0.80)

表5. 小グループでのディスカッションの効果 (H21年度)

	回答数(%)
① 授業のアクセント	29(26.1%)
② 受講生同士や教員との双方向性	57(51.4%)
③ 自分の知識の確認	63(56.8%)
④ 教えあうことによる学びの向上	68(61.3%)
⑤ 仲間意識の形成	15(13.5%)
⑥ 授業へ参加している意識の形成	29(26.1%)

*複数回答あり

3. 本授業の成果と今後の課題

「教職教養課題特講I」について、学生の授業評価を実施したところ、概ね高い評価を得ていた。また、大人数の講義形式の授業における小グループのディスカッションについても、学生からの評価は高くなっていた。「自分が教師になりたい気持ちを強くしてくれるだけでなく、自分の教育観などについて再び考え直すことができる」といった学生のコメントからも、本授業が授業実践の知識だけでなく、今後の大学生活への動機づけや自己教育課題の見直しの機会になっていると思われる。

他方で、以下のような課題もあげられる。今後、学生の学びの質を高めていくために、単位の実質化の議論とも関連させた質保証をどうするかが問われており、授業改善を図っていきたい。

<授業改善の課題>

- ・学生からの授業評価やレポートからは高い評価を得たが、本当の成果は、その後のカリキュラムにおける学びや次年度の教育実習等にどう活かせるかである。
- ・小グループでのディスカッションの方法について、ディスカッションに関するスキルの提供を行うことで、学生の主体的な意見交換や議論をさらに深めていくことができる。
- ・選択の授業であるが、受講生が減少傾向にある。学生の意識高揚とともに、毎年講師も変わっていることから、継続的な受講も促していきたい。

